資料１

岩村田本町商店街振興組合
（佐久市）

子ども第三の居場所コミュニティモデルとは

地域の子どもたちが気軽に立ち寄れる居場所を週3日以上開所し、地域の人々との交流や体験を通じて人と関わる力や自己肯定感を育むとともに、課題を抱える子どもの早期発見や適切な支援を行う。
実施頻度：週3日以上の運営
実施時間：運営終了時刻は原則として19時以降
対　象　：小学生を中心に、子ども（未就学児～高校生）を対象とする。
人　数　：1日あたり子ども15名～（子どものみの人数）
スタッフ：マネージャー(フルタイム)1名以上、その他スタッフ1名以上　など

1

２０２１年度の取組（１年目）

岩村田本町商店街振興組合

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
火・水・金 15時～18時	火・水・金 18時~19時	クリスマスリースづくり講座や、ママのためのだベリング講座、支援の必要な子どものための「基礎学力講座」の実施など行うが、「コロナ蔓延のため、休室期間も発生	利用状況（2021.10-2022.3） 133 名(小学生) 登録ボランティア 53 名(高校生、大学生)

成　果	佐久市では初めての放課後支援の場を設置することができた。設置にあたって、佐久市の協力、県の協力を得ての開設が実現した。また、開設にあたって、近隣高校大学から４４名のボランティア登録があり、今後の活動に多様性を見込める。 利用者の保護者からは、開設後、感謝の声が届いており、内容的にも満足度の高い活動内容で実施できた。

主な課題

利用者数が少ない。地域に居場所が周知できていない。近隣の小学生の利用が少ない、などの課題がある。まだ、開設して４か月。居場所がある、ということも、その充実した内容も周知ができていない。

地域資源

近隣の高校大学へのボランティア協力のお願いや、小中学校への開設告知など「子どもの居場所」の存在PRに注力する中で、民生児童委員や区長会など様々な機関に連携依頼を実施

2

２０２２年度の取組（２年目）

岩村田本町商店街振興組合

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
火・水・金 15時～18時 開所日128(4月～3月）	火・水・金 18時~19時	４月のフラーアレンジの講座を皮切りに、2か月に１度のペースでイベント開催。	利用状況（2022.4-2023.3） 合計利用者数　650　高校生V参加数　340 　施設利用者計　990名 登録ボランティア　３１名

成　果	
	Insta、Webの改修、学校への告知、民生委員の協力、１か月に１度のイベントの開催など積極的に地域にアピールした結果、利用者数も増加。アウトリーチしたい利用者も増加。小学校訪問も課題の有無に関係なく定期的にレポート提出するなどして、連携が強化でき、課題解決にも寄与できた。２年目として、「居場所」の認知が上がった。

主な課題

1　自立に向けての収益源の確保。ファンドレイジングの在り方の構築。地域企業に協力、理解していただくための様々な活動。

2　岩村田本町商店街の強みを反映できるような活動を既存のイベントを活用しつつ、新たな切り口の取り組みも企画して課題を解決を長野県次世代サポート課、長野県みらい基金をはじめさまざまな団体との連携のなかで解決を図る。

地域資源

長野県議会、民生児童委員、SSW,など様ざまな機関の方の来訪を受け、居場所の活動を知っていただけた。また、商店街のイベント活用して地域の人からも寄付を頂くなど、取り組みが認知されてきた。

3

２０２３年度の取組（３年目）

岩村田本町商店街振興組合

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
火・水・金 15時～18時 開所日　98日（4月～12月）	火・水・金 18時~19時 開所日　98日	今年は2月「初午祭」7月「祇園祭」11月「えびす講」など、商店街の伝統行事を十二分に活用して、地域に「居場所」の浸透が図れた。	利用状況（2023.4-2023.12） 利用者数　877　高校生V参加数　318　施設利用者計　1195名 登録ボランティア31　名

成　果

開設3年目を迎え、これまでの取り組みの成果が出てきたと同時に、コロナの5類化によって、これまで自粛していたイベントも解禁となり、商店街の伝的な行事である「岩村田祇園祭」7月や「えびす講」11月などが開催できたことで、来街者も急激に増え、「居場所」を告知するのにもｔってこいの環境ができた。また、学校との定期的な参加状況報告などもできていることで、様々な課題解決が速やかにできる体制になった。また、長野県の協力で「沖縄交流事業」に当所から6名が参加して楽しい時間をいただけた。さらには、自然体験、農業体験、カーリング体験などの各種体験イベントも実施できた。沖縄交流では御代田の団体「なから」とも交流をひろげられ、横の連携も生まれた。

主な課題

1　自立に向けての収益源の確保。ファンドレイジングの在り方の構築。地域企業に協力、理解していただくための様々な活動。

2　岩村田本町商店街の強みを反映できるような活動を既存のイベントを活用しつつ、新たな切り口の取り組みも企画して課題を解決を長野県次世代サポート課、長野県みらい基金をはじめさまざまな団体との連携のなかで解決を図る。

地域資源

岩村田民生委員様のご尽力で民生委員の広報誌 「つなぐ」秋号に4P枠掲載で居場所の取材をお願いでき、長野県内に告知できた。

4

３年間の総括（成果・できなかった事など）

岩村田本町商店街振興組合

１、成果

①連携

この事業の特性から、さまざまな機関との連携こそが重要なポイントであると認識していたが、やはり、年を追うごとに、新たな団体や機関の方とのつながりができ、その方々との連携のおかげで、理想に近い運営ができるようになってた。開設当初は頃何の影響もあり、利用者が少なかったが、少ないなりに利用者が直面する課題に真摯に取り組め、その課題可決のために、学校やSSW,関連の方々と相談したり、提案したりしながら、課題を解決できていった。特に、学校の窓口となる、教頭先生やSSWの先生方との連携が、この事業の継続的発展に寄与していることは間違いない。

②情報

事業の性格上、場所の周知の仕方に当所は戸惑いもあったが、イベント各回ごとに小学校でチラシを配布いただけたことや、Instaをはじめとする SNSの充実、HPの改修などによって、利用者増が実現できた。使う媒体の効果は大きかった。

③満足度

利用登録者がそんなに増えているわけではないが、リピート率が非常に上がっていることは、スタッフをはじめとしてボランティアの皆さんの誠意ある対応が、満足度を上げていると思う。専門的な見識を持ったスタッフ、経験あるスタッフの投入は、必須の条件だと考えている。

２，できなかったこと

①運営面　なるべく早い時期に、高齢者と関わる場を設けたかったが、内部充実に時間も取られ、次年度の課題として取り組みたい。また、運営に関するスタッフの研修は、日本財団の質の高い研修が受講でき、活用できたが、高校生ボランティアへの、対利用者、対保護者などとのコミュニケーションの取り方などを、体系的に、学ぶ機会を作れなかった点は、反省点。次年度は、その計画の中に組み入れたい。

②財政面　３年目の自己負担２０％について、当初から昨年度末から課題となっていたが、予定通りのファンドレイジングが実現できなかった。月額会費制や企業寄付などのスキーム作りも次年度の改題として取り組みたい。

資料３

２０２３年度　以降の取組（４年目からの目指す姿）

学習支援	食事提供	地域・多世代交流など	その他
火・水・金 （週３回　１５時～１９時）	原則　火・水・金 での毎回提供を考えているが、事業原資を確保できない場合は、回数を減らすことも視野に入れる。	昼間の活用として 「シニアの居場所」づくり ①「私の自慢講座」（仮）の開催 ②支援の必要な子どもたちとシニアの交流の場	

事業計画など（自由記述）

１，多世代交流の拠点化4年目からは「多世代交流の拠点づくり」を実現したい。現在「佐久シニア大学」を運営している長寿社会開発センターさんと連携し、シニア大学生による「私の自慢講座」でシニアの特技を生かした講座を有償で開設してもらう。対象は、地域の方々、」シニア、子どもたちなど、テーマに合わせた方々とし、シニアの成果を発表する場として、継続的な講座を開設してもらう。また、教育経験や、カウンセリング経験のある専門知識のある、シニアを中心に「不登校、引きこもり」などの生徒を「おいでなん処」に来てもらい、そこで、シニアとの交流の場を設ける。

２，無理のない継続運営3年目の移行期に、計画したような、「寄付システム」を軌道に乗せることは難しいことに直面した。4年目を100％寄付、会費のみで運営することは、難しいと判断したため「wam net」など、当該事業継続のための助成制度を活用すべく、申請中。この事業は「人材第一」。そのためには「有償の人材確保は必須」オペレーションできる人材があってこその事業。課題は、次の担い手の育成を視野に入れた、運営。ただ、無理のない運営を心掛け、「この居場所を必要とする人々」にとってさらに大切な場所になるための、スキームを研鑽していきたい。